

やっと成人式を 迎えました!!

東京・別海ふるさと会 会長

新家 鶴 男



東京・別海ふるさと会、やっと「成人式」を迎えました。これはひとえに会員、別海町、北海道ふるさと会連合会など多くのご支援お力添えのお陰と心より御礼と感謝を申し上げます。これからも会員一同ふる里応援団として頑張つて参ります。特別会員をご紹介します。作詞・作曲家小六禮次郎、歌手・女優倍賞千恵子様ご夫妻です。お一方は別海町に住んで23年、そのお一人から特別にメッセージを戴きましたので連合会会報にも掲載させて頂きました。

東京・別海ふるさと会

別海ふるさと会創立20周年おめでとうございます。

本当に月日の経つのは早いものです。1996年、会の創立の日、雪のちらつく寒い日に五反田まで出かけ、皆さんにお会いしたことを昨日のこのように思い出します。



私もまだ40歳代でしたから、やはり? 元気でした! あの時

別海ふるさと会 創立20周年によせて

別海在住 倍賞 千恵子



東京に雪が降ったあの日、「別海ふるさと会」の1回目、あれからもう20年もたったのです。そして今年はその「男はつらいよ」の寅さんこと渥美清さんが亡くなって20年になります。その間、私達のこの小さな国でいろいろな事があり、世界でも、大きな変化が起きています。その間も「ふるさと会」はずっと続いてきました。今年もたくさんの方々と出会いました。まだまだ知らないことや新しい発見があるとい



う事を、そんな皆さんから教えていただきました。そして悲しいお別れをしなければならぬこともありました。仕方の

創立20周年を迎えて

別海在住 小六 禮次郎



もお思いかも知れませんね。

20年という月日は生まれた子が成人になるほどの時間ですから、大変な事です。その間にはたくさんの方々の出来事があり、時代も大きく変化して、皆がスマホ片手に歩いているなんて誰が想像したでしょうか。私達の別海の家も建ててから23年になりました。屋根の修理や壁の塗り替えなど、この数年毎年のようにしなければならなくなりました。植えた木々は大きく成長しどっしりと根を張って育っています。

ふるさと会の皆さんが思い描いている、あるいは思い出の中にある別海町もこの20年で大きく変化してきています。本別に家を建て住み始めた頃、小さかった子供たちが、もう

故郷新冠は 日高線の思い出

東京新冠会

古庄 幸子



小学生、線路脇の公営住宅に住んでいた私は、鉄路に耳をくっつけて、遠ざかる汽車の音を聞いて遊んでいました。春立への潮干狩り、冬島へのキャンプ、アポイの登山。日高線のトンネルの数、駅の名前を覚えるのが楽しかった。中学生の夏休み、カニ族が乗る列車に手を振りました。

高校生、アポイ岳の逍遙、修学旅行は団体列車で11泊12日の大型旅行でした。通学で目にする太平洋の四季の移ろい、土手に咲くカンゾウ、スカシユリが好きでした。そして故郷新冠を後にして43年、その間も母の遠距離介護を続ける私には、日高線は大きな味方でした。母がフキ取りの近道に鉄橋を渡った時、渡り切れず、下り列車を止めたとか、運転士さんに「危ないゾー」と叱られたが、それどころではなかったと云う昔話に大笑いさせられた。懐かしい母との一コマです。

母が亡くなった翌年、日高線の不通を知りました。そして目の当たりにした赤さび状態の鉄路、母がよく迎えてくれた無人駅が一層寂しく感じた事を覚えていて。本州各地では今、豪華列車が話題になっております。北海道は誰もが訪れたい旅行地なのに、時の流れか、線路の廃止があちこちから聞かれるのが残念です。小さな時から故郷の日高線を楽しんだ自分も今はすっかりオバ(ア)さんになりました。これもまた歳月です。

2016年 12月